



月刊

オリーブ

2025

10

Vol.125

— 真の更生を目指して —

富士山登頂に挑みました。その道のりは、想像を絶する厳しさでした。しかし、この挑戦の根底には、ある強い思いがありました。それは、刑務所に収監されていいる無期刑囚の方々への共感です。

彼らの日々は、いつ終わるともしない「先が見えない」生活です。私はその重苦しさを思うと、自分自身の人生において、何か「先が見えない」とされてきたこと、あるいは未踏の領域に果敢に挑んでみたいという衝動に駆られました。その思いが、日本最高峰である富士山への挑戦につながったのです。

登山者は6名。Aチーム（健脚3人）とBチーム（私・妻・リーダーの永山氏）に分かれ、それぞれのゴールを目指しました。

六合目手前で空が朝焼けに染まる光景を眺めた頃はまだ余裕がありました。しかし、そこを過ぎたあたりから、空気はさらに薄くなり、足取りは鉛のように重くなつていきました。一步進むごとに、

去る9月6日。私は、長年の夢だった富士山登頂に挑みました。その道のりは、想像を絶する厳しさでした。しかし、この挑戦の根底には、ある強い思いがありました。それは、刑務所に収監されてい

息は切れ、心臓は激しく高鳴ります。七合目あたりで何度も心が折れそうになり、まさに、肉体的にも精神的にも限界との戦いでした。

七合目は私がこれまで経験したことのない溶岩岩場の連続でした。熊本で何度も登った金峰山とは別次元の霊峰富士を嫌というほど思い知らされました。そして八合目のはるか手前、リーダーの助けを借りながら急な岩場を必死に這い登り、ようやく残り数段の階段を駆け上がった時のことです。途中で私を追い抜いて山小屋で休息していた外国人登山者たちが、一斉に拍手を送ってくれたのです。その感動は、今も忘ることができません。

——いやあ、正直、本当に嬉しかった！

その後、Aチームは登頂に成功。Bチームは八合目でリーダーからストップがかかり登頂を断念しました。下りも相当時間がかかり、早朝4時半に暗闇の中を登り始めてから、一日で15時間以上歩き続けたことになりました。

きく変えました。困難に直面したとき、私は以前なら躊躇していたかも知れません。しかし、富士山での体験を経て、どんなに辛くとも、その先にはきっと素晴らしい光景が広がっていると信じられるようになりました。そして、目の前の景色が変わるよう、自分自身の内面も、挑戦を重ねることで常に変化し、成長していくのだと実感したのです。

何よりも、登山に限らず何かを成し遂げようとする時、自分自身の思いや努力だけではなく、多くの方々の支えやサポートがあつてこそ実現できるのだということに今更ながら気づかされました。私は、刑務所にいる彼らの状況を変えることはできません。けれども、「先が見えない」という苦しみに寄り添いながら、富士山での挑戦を通して学んだことを、どんな状況にあっても希望を見出す力として分かち合いたいと思います。支えてくださる方々への感謝を胸に、この経験はこれからも私の人生を照らし続けてくれるでしょう。

先が見えないからこそ — 富士登山で得た気づきと感謝 —



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

青木康正さん、健やかにお過ごしでしょうか？お盆休みは故郷に帰省されましたか？

先々週熊本は線状降水帯により記録的な豪雨で死者や行方不明者、被害も大きく盆どころではなかつたと思います。一日も早く復旧して欲しいです。理事長さんの所は被害を受けませんでしたか？

夏に逆戻りで厳しい猛暑が続いています。熱中症には気をつけてください。私も受刑者に負けず励んでいますので安心してください。

靈峰富士登頂を計画されていたのに雨で流れてしまい残念でしたね。私も7月15日、関東地方台風の影響で雨になつたので登頂は無理だうなと思っていました。登頂に備えて準備に余念がなく、金峰山や日本一の階段を何度も登り鍛錬され体調万全で挑戦する覚悟ができていたのに中止になり気持的にガッカリだつたと思います。

自然の力に左右され、ご来光を

拝むことが叶うことができませんでしたが・・・。青木さんはすぐ再挑戦を9月に設定され、本当に厳しい再挑戦になるかと思います。時期的に富士山は登れば登るほど気温も低くなり、山頂は日中でもひと桁まで下がるそうです。再度体をトレーニングするのが大変かと思いますが、神様は耐えられない試練は与えられないを胸に、無期刑は先の見えない希望もない、

社会復帰する灯りも望めないなか自分に負けず頑張っている受刑者のことを深く理解し、青木さんは収監されている無期囚に対し、少しでも心を癒してあげたいという思い、厳しい試練の中に身をおく、先の見えない苦しみに寄り添い、挑戦を通して、生きていればきっと希望が叶うと、信じることの大切さを知つてもらおうと心を鬼にして無期刑の苦しみを背負つて、険しい挑戦に立ち向かっておられる心意気に感謝せずにいられません。

残暑厳しい中、富士登頂に向け、喜寿の体に鞭を打つて懸命に頑張つておられるかと思うと嬉しくもあり、ちょっと切ない気がします。

高齢でありますので、無理をしないで無事に登頂の日を迎えられます。成功されますよう心より祈っています。登頂され、ご来光を拝観できますよう応援しています。

今年のお盆休みは13日～17日までの5日間で、例年と一緒に午後はビデオ視聴番組がありましたが、私は高校野球が好きなので、また九州勢の応援であつという間のお盆休みでした。ゆっくり休み、

6月に中庭にダリヤの花の種蒔きをしたのが順調に育つて、きれいな花が咲くと期待していましたが、猛暑の影響で花もつかず、茎も萎れて枯れてしまいました。せっかく植えたのにガッカリでした。こんなに暑い猛暑では植物は育たないですね。

理事長さん、スタッフの皆様のお陰で受刑者は救われ、生きる希望を与えられ勇気をいっぱい頂いています。感謝の気持ちでいっぱいです。残暑厳しい毎日が続きますので熱中症には気をつけて穏やかにお過ごしください。

(N・Nさん)

受刑者のみなさんへ

オリーブの家はあなたの自立をせいいっぱい応援します！

すばしょ しょくじ しごと じゅんび
住む場所、食事、仕事を準備します



理事長の青木です！



みんなで卓球大会！

九州の熊本で
あなたを
まっています！

「あなたには帰る場所がある」

自立準備ホーム・オリーブの家

まずはお手紙ください

〒860-0082

熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201

支援者からの寄稿



「愛の力」

熊本日日新聞編集委員

福井 一基

3回連続ですが、青木さんのたっての希望で富士登山の顛末について寄稿します。

前回触れたように、青木さん、順子さんと富士山に登ることになり、金峰山（熊本市・665m）、釈迦院の階段（熊本県美里町・3333段）、祖母山（大分県竹田市など、1756m）とトレーニングを積んで、いよいよ富士山に挑戦してきました。台風の影響で熊本からの新幹線が途中ストップするなど、移動だけで大変な旅の幕を開けでしたが、予定通り9月6日未明に登山を開始しました。

歩き始めは暗くてヘッドライトが必要だったのですが、東の空が徐々に明るくなっています。山の稜線上にできるオレンジからブルーのグラデーションは息をのむ美しさ。既に標高2400mです。朝日が昇り始めると山々や湖、麓のまちに生命が宿るかのように明るく照らし出しました。全員感無量、言葉を失う絶景でした。

パーティー6人は体力を考慮して、登頂を目指す私を含むAチームと8合目で折り返す青木さんのBチームに分かれました。

Aチームは3人とも初富士山。高度が上がるとほど壮大になる景色にテンションも高く、おじさんばかりできやぴきやぴと登っていました。

ところがどっこい、8合目付近からは足が重くなりいつものように動けません。軽い高山病になっていたようです。何とか登頂を果たし「日本一」の気分を味わえたのは僥倖でした。

そして、Bチーム。こちらは富士登山の経験もある「オリーブの家」副理事長の永山太さん（665m）が引率されました。青木さんは力の限りを尽くしたそうですが、結果は青木さんの巻頭言の通りでした。

その壮絶さに言葉を失うとともに、青木さんの意志の強さに驚きました。普通は倒れる前に諦めるものです。何がここまで青木さんを突き動かすのか。更生を支援する刑余者に「思いは叶う」という姿勢を示す今回の富士登山でしたが、その気持ちは十分伝わったのではないかと思います。

そして何より青木さんを支える順子さん、永山さんの「愛の力」に感服しました。永山さんは動けなくなつた青木さんのザックを背負い、青木さんに肩を貸して下山をサポートしたそうです。16時間近くの山行です。強靭な体力と精神力はもちろんですが、

愛の力なくてはとてもできないことだと思います。

私はオリーブの家の礼拝にもおじやましていますが、賛美歌の「きみは愛されるため生まれた」とあるのは、青木さん自身のことではないかと思うことがあります。愛の存在が確かなものだと知っているから、青木さんもオリーブの利用者のみなさんを愛し、支えることができる。今回はそんなことを再確認し、登頂の達成感以上に尊いものを得られる旅となりました。

オリーブの家でさまざまな人と知り合い、さまざまな人生を疑似体験、またはリアルに体験しています。これも新聞記者の醍醐味でしょう。多くの出会いに感謝しています。

福井 一基



ふくい・かずき

1974年生まれ。98年、熊本日日新聞社に入社。主に社会部畠を歩み、警察、自衛隊、災害取材のほか依存症やLGBTQ、不登校など教育問題に取り組んできました。



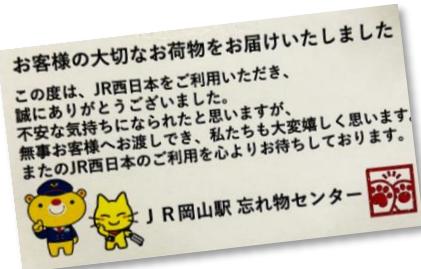
オリーブの家で
見つけた笑顔

「帰ってきた忘れ物」



みなさん！大切なものを乗り物に忘れてしまった経験はありませんか？私は、富士登山を終えて帰る途中にやらかしてしまいました！新幹線乗り換えでの出来事でした。最後の乗換の新神戸を発車してから、ほつとして気が付くとお土産の袋がないのです。座席の棚の上に置き忘れてしまったのです。

残念無念!!一時は潔く諦めました。しかし、よく考えると列車の名前も時間も座席も分かっています。思いついて車掌さんをつかまえて相談しました。すると、指定の忘れ物センターを教えてくれました。電話をすると確かに手がたえがありました。着払いで送つて頂き、私の手元に届きました。オリーブの家で富士山型のクッキーを配ることが出来ました。



岡山駅まで旅をした忘れ物。
温かいメッセージカードと共に送られてきました。

副理事長 小原順子

会計報告

| | 6月 | 7月 | 8月 |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 月次自立準備支援人数 | 6名／9室 | 4名／9室 | 6名／8室 |
| グループホーム利用者数 | 11名／12室 | 11名／12室 | 12名／12室 |
| 収入 | 自立準備ホーム | 832,505 | 896,957 |
| | 献金 | 801,460 | 776,300 |
| | グループホーム | 1,986,604 | 2,345,034 |
| | その他 | 496,614 | 174,356 |
| 収入合計 | 4,117,183 | 4,192,647 | 4,288,665 |
| 支出 | 家賃 | 677,800 | 710,800 |
| | 水道光熱費 | 235,569 | 269,348 |
| | 食費 | 419,988 | 508,475 |
| | 人件費 | 2,065,650 | 2,321,017 |
| | 活動費 | 117,822 | 175,029 |
| | その他経費 | 728,290 | 586,235 |
| 支出合計 | 4,245,119 | 4,570,904 | 4,033,289 |
| 収支合計 | -127,936 | -378,257 | 255,376 |

| | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 前月繰越現金預金残高 | 5,946,687 | 5,626,396 | 5,087,110 |
| 翌月繰越現金預金残高 | 5,626,396 | 5,087,110 | 5,562,379 |
| 施設準備積立金残高 | 1,550,263 | 1,600,263 | 1,650,263 |

※ 自立準備ホームは今月より8室となりました。※ その他経費には、社会保険労務士報酬 82,500円が含まれています。

全国のオリーブの家を支援くださる皆様へ
今年は大学のクラス会、高校の同期会、大学を出て勤めた会社の同期会が続き、古い友人たちとの再会が重なりました。人生の様々な局面でいろいろな友人に助けられて来たことや、同期の人たちの多種多様な職業の話から、社会の知らないところで支えられていることを思いました。人はひとりでは生きられないことを思うと、オリーブの家を支えて下さる方々の祈りと献金に感謝の気持ちを新たにしています。ありがとうございます。

理事 今井 洋子



月刊オリーブ
2025年10月1日発行
(毎月1回発行) 第125号

編集・発行 NPO法人「オリーブの家」
〒860-0082 熊本県熊本市西区池田2丁目9番1号コーポ池田201
TEL 096-342-4123 FAX 096-342-4248 E-mail 0110harvest@gmail.com
<https://npo-olive.org/>

